

阿智村事務事業評価シート

事務事業名	第18回熊谷元一写真賞コンクール	担当者	協働活動推進課	協働活動係
-------	------------------	-----	---------	-------

①事務事業の概要

総合計画での位置づけ	1. 心豊かな人生を送れる村／教育・文化の向上／文化振興と文化財			
関連する主な計画等				
根拠法				
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施	<input type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 補助金交付	<input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他
事業の対象者	全村民及び全国			
事業開始年	H10	<input type="checkbox"/> 時期不明	事業の終期	<input checked="" type="checkbox"/> 終期末定

②事務事業の計画(PLAN)、取組(DO)

実施目的	阿智村を長きに渡り撮影し続けた熊谷元一氏を顕彰して、平成10年から実施している『熊谷元一写真賞コンクール』を通じて「農村記録写真の村」として、阿智村を全国にアピールする。					
具体的取組	コンクール応募テーマ『親子』 審査会 平成27年9月29日に開催。 写真展は、東京 ヒルトピア アートスクエア(10月28日～11月3日)及びコミュニティ館において阿智祭とも絡めて(11月6日～20日)に開催し、入賞・入選作品とテーマに沿った熊谷元一作品を併せて展示した。例年通り、熊谷元一写真童画館アートギャラリーでも展示(10月28日～平成28年1月25日)している。表彰式(11月3日)も東京で行った。 村内写真愛好団体等(熊谷元一写真保存会、上中関地域の景観と歴史を守る会、伍和自治会広報写真部、伍和写真クラブ、混合写真クラブ)に呼び掛けて懇談会を開催(10月15日)。					
実績・効果	応募者数 332名・応募作品数 955点 写真展来訪者数 228名(東京のみ) 今回、企画のねらいとして、①受賞者等表彰式の参加者を増やす。また、童画館への来訪が難しい方々に観覧する機会を提供する。②元一写真及びコンクールを外部に知っていただくことでコンクールを秀でたものとし、次年度へのコンクール参加者を増やす。③27年度の表彰式を通じて、28・29年度以降のコンクールが元一写真の意義をさらに高める意識を保持する位置づけとする。として取組んだが、あまり効果が見いだせなかった。					
歳出の内訳(千円)	項目	金額	項目	金額	項目	金額
	賃金	497	需用費	396		
	報償費	680	役務費	720		
	旅費	309	委託費	86		
			使用料	228		
事業コスト	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	実績額(千円)	1,940	2,091	2,916	2,435	2,135
	うち一般財源	1,940	2,091	2,916	2,435	2,135
	うち補助金					
	うち個人負担					
	従事職員(人)	正規職員 1	1	1	1	1
	臨時職員 1	1	1	1	1	

③評価(CHECK)

区分	個別判定	判定理由	総合判定	
必要性	住民のニーズは高いか	b	元一の顕彰と「写真の村」としてのアピール	B
	手段、成果は妥当か	b	妥当だが、ただし、コンクールの見直しは必要	
	対象者の設定は妥当か	b	写真という趣味の域を超えることが難しい	
	村の関与は妥当か	b	「農村記録写真の村」宣言に関する事業である	
有効性	期待された効果が得られたか	東京での写真展に課題はあったが、今後の展望として意味があった	B	
効率性	コストの削減に努めたか	c	作品展示や表彰式の手法を新たに展開したが費用対効果が得られなかった	C
	効率性を高める工夫はされたか	b	コンクールの展望を考えながら実施した	
公平性	受益者負担は適切か	将来的に賞金賞品を考える必要がある	B	
総合評価	B			

④改善(ACTION)

事業の方向性	継続・維持
課題	今後も元一の記録写真の精神を継承するコンクールとして他のコンクールと差別化や、阿智村の魅力の掘り起しと再認識を目指し、コンクールを通じた阿智村への貢献が求められている。
今後の取り組み	28年度は村内撮影部門の代わりに、「阿智村」もコンクールのテーマの一つとし、また、阿智村写真ツアーなどを通じて、元一写真の魅力と阿智村を舞台とした写真コンクールとしていきたい。賞品の見直しも考慮した。